

様式1 令和5年度 山梨県立ろう学校評価実施報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	幼児児童生徒のたくましく生きる力と豊かな言語力を育む ○一人一人の特性に応じた適切な指導及び必要な支援の充実を図る ○自身の力を発揮し、自分が自分らしく生きる力を育成する ○物事に対し、周囲の人とともに取り組む力を育成する
-----------	--

山梨県立ろう学校校長 木村 則夫

本年度の重点目標	1. あらゆる教育活動の場に発達段階に応じたコミュニケーション活動を位置づけ、豊かな人間性を育み、言語力・コミュニケーション力の向上を図る。
	2. 個々に応じた合理的配慮によって、わかりやすい授業を実践し、学力の向上を図る。
	3. 心の教育・キャリア教育を充実し、社会的自立に必要な能力や態度を育成する。
	4. 家庭・地域等との連携及び聴覚障害教育のセンター的機能の充実を図る。
	5. 安心・安全な学校づくり。

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自己評価

本年度の重点目標		年度末評価(令和6年2月26日現在)				
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	豊かな人間性を育み、言語力・コミュニケーション力の向上を図る。	①「見る・聴く・読む・書く・発表する・対話的やり取り」の知識・技能を高める。 ②集団活動の中で、積極的にコミュニケーションを図るための工夫をする。	聴能・手話・発音等聴覚障害に関する研修 集団授業、交流及び共同学習、部活動、行事等の実施 運動会等異年齢集団行事の活用	・聴覚障害児教育の基本的な考え方を学ぶとともに、聴覚活用や手話研修及び研究会を実施し、教職員の専門性を高めることができた。実施回数(R4→R5年度):①全体研修(10→11回)、②学部研修(11→12回)、③自主研修(10→19回 ※含オンデマンド)実施 ・新型コロナウイルス感染症による活動の規制が緩和され、学校間(幼小中高)や地域との交流、学校行事、部活動等も活発に実施され、子供たちが積極的にコミュニケーションを図るための準備や工夫がされており充実した内容となっていた。特に運動会では、幼稚部から高等部まで一体となった活動が展開され、幅広い年齢層の子供たちが親睦を深めることができた。	A	・R4年度から研修実施回数が増加し、学校全体として意欲的に研修や研究を実施することができたが、働き方改革の観点からも内容を精査し改善を図る。 ・個に応じたよりよい言語学習を充実させることにより、各活動においてコミュニケーション力の向上を図る。また、交流及び共同学習、部活動、行事等を通して様々な人と関わりを持つ中で豊かな人間性を育む。
2	個に応じたわかりやすい授業を実践し、学力の向上を図る。	①専門性を生かしながら、授業力向上を(やまなしスタンダード授業づくり7つの視点から)図る。わかる楽しさ、できるうれしさを味わえる授業の実践 ②専門性の維持・向上のため、外部専門家を活用し、計画的な研修及び授業研究を行う。 ③児童・生徒用端末等(ICT 機器)の効果的な活用を図る。 ④2学期制の良さを生かした長期的な視点での継続的できめ細かな指導と評価を行う。	授業公開、研究授業の実施 児童・生徒による評価 相互授業参観、授業研究会の実施 ICT機器を活用した授業・行事等の実施 行事等の精選による授業時間数の確保 個別指導計画の達成状況	・校内研究会や指導主事訪問の機会を利用して教員相互の授業参観を行い、多くの授業を参観することで授業力の向上に努めることができた。 ・「自分らしく生きる力と言語力を育むために」を全体テーマとし、各学部及び寄宿舎においてそれぞれ研究テーマを設定して、研究授業・実践を中心に研究を進めることができた。 ・ICT機器を活用した「一人一実践」において、授業におけるICTの積極的な活用に取り組むことができた。 ・2学期制の導入により行事等が精選されてきたことと併せて、コロナ禍で行事や会議等が効率化されてきており授業時間数が確保され充実した授業が展開されている。	A	・校内研究を充実させるとともに、引き続き教員相互授業参観を実施し、教員一人一人が研鑽を重ねることで、よりよい授業づくりや指導力向上に取り組む。 ・各学部及び寄宿舎において、外部専門家を活用した研究・研修を行うことにより専門性の維持向上を図る。 ・ICTを活用して「個別最適学び」と「協動的な学び」の一体的な充実を図る。 ・行事や会議等の精選・効率化をさらに進め、授業時間数を確保することにより、個々の実態に応じた指導を充実させる。
3	心の教育・キャリア教育を充実する	①人間形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力を育成する。 ②キャリア・パスポートを活用し、系統的で継続したキャリア教育を推進する。 ③学校間交流、地域交流、居住地校交流など交流及び共同学習に積極的に取り組む。 ④地域における障害者理解を進め、就労支援や一般就労の拡大を図る。	キャリア・パスポートの作成状況及び活用状況 ICT能力実態チェックシートの活用状況 図書室の開放を検討 オンラインを活用した交流 地域を知り、地域に知ってもらい地域とともに活動の充実 勤労体験、インターンシップ、現場実習、社会科見学等の実施状況	・ICT活用能力実態チェックシートを活用して教職員が自分自身のICT活用についてフィードバックを図ることができた。 ・キャリアパスポートを作成し振り返りを行うことにより、職業観や勤労観を育成するとともに、自分自身を見つめる学習を行うことができた。 ・学校間(幼小中高)や地域との対面での交流もコロナ禍前と同様の活動が行われ充実した活動が展開された。また、居住地校交流には小中学部で6人の児童生徒が参加しており、成果をあげている。 ・地域の方々との交流や現場実習、インターンシップ、社会科見学等を数多く実施する中で、聴覚障害に関する理解と合理的配慮が進んできている。	B	・進路関連行事やキャリア教育について、全教職員でキャリア教育の充実を努めるとともに、幼児児童生徒のキャリア発達に向けて、保護者との情報共有及び連携を図っていく。 ・キャリアパスポートを活用し、将来の自立に向けた見通しを持ったキャリア教育を実践する。 ・同世代との集団や地域との交流を通して幼児児童生徒の豊かな心やコミュニケーション能力の育成を図る。また、図書室の開放については引き続き検討していく。 ・交流及び共同学習、現場実習、社会科見学等を通じて社会参加意識・態度を育み、聴覚障害に関することや合理的配慮についての理解もさらに深める。
4	家庭・地域等との連携及び聴覚障害教育のセンター的機能の充実を図る	①保護者の理解と協力を得る丁寧な説明を推進する。 ②学校運営協議会設置校として、地域とともにある学校づくりに努める。 ③外部専門家を活用した助言や援助を行う。	保護者との情報共有及び保護者学習会等の実施 学校運営協議会の開催 STの帯同、支援実績	・スクリーン(お便りデジタル配信サービス)を導入し、多くの情報をタイムリーに保護者に届けることができた。また、PTAでは研修会(2回)、手話講習会(10回)を実施し聴覚障害教育を持つ子供たちとの関わりについて学ぶことができた。 ・学校運営協議会が発足して2年目となり、よりよい学校運営に向けた協議会の在り方が定着してきた。 ・関係機関と連携し、乳幼児・児童生徒・保護者によりよい支援や情報提供を行うことができた。また、外部専門家と共に訪問支援を行い、インクルーシブ教育の推進に努めることができた。	A	・ホームページやスクリーンなどで情報を発信するとともに、連絡帳や日々の対話を通して子供たちや学校について、保護者の理解を深めることができた。 ・コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進める。 ・関係機関と連携し、乳幼児・児童生徒・保護者によりよい支援や情報提供を行うことができた。外部専門家と共に訪問支援を行いインクルーシブ教育の推進に努めることができた。今後もセンター的機能を発揮し、外部専門家活用の充実を図る。
5	安心・安全な学校づくり	①防災教育や避難訓練を計画的に実施する。 ②家庭、地域、関係機関と連携した安全確保に向けた取り組みの充実に努める。 ③感染症等の予防及び蔓延防止対策の徹底を図り、健やかな学びを保障していく。	避難訓練、防災訓練等の実施 学校安全計画、危機管理マニュアルの更新 感染症等に対する管理の徹底及び校内の環境美化・整備	・警備防災計画を見直すとともに、火災、地震を想定した避難訓練を3回実施した。抜き打ちでの訓練及び地域の協力も得ながら実施することができた。 ・学校安全計画、危機管理マニュアルを見直すとともに、ねらいを明確にして防犯教室等を実施することができた。 ・校内の感染状況を把握し、手洗いや換気等の感染症対策を徹底することができた。また、窓際のロッカーなどに転落防止用の窓ロックを導入するなど安全で快適な学校生活を行えるように改善を行った。	A	・警備防災計画の定期的な見直しとともに、地域と一体となった防災対策を講じる。 ・学校安全計画及び危機管理マニュアルの定期的な見直しを行うとともに、幼児児童生徒の実態に応じた安全指導を行う。 ・学校生活における感染症対策や安全点検を確実に実施する。

学校関係者評価

実施日(令和6年3月4日)	
評価	意見・要望等
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ろう学校教員の専門性の低下が懸念されている昨今、今後より一層、教職員としての専門性を高めていく方策が重要となると考える。幼児児童生徒が、様々なコミュニケーション手段を理解し、子ども達自らが手段を選択できるような教育を望む。</li> <li>・多くの研修・研究会により教員の専門性が高まりICT活用能力も向上していると感じる。積極的な交流活動により、子供たちのコミュニケーション力が育まれている。</li> <li>・働き方改革とのバランスを考慮して、研修等を大切にしてほしい。</li> <li>・ろう学校の存在理由がここでの評価に反映されている。</li> <li>・教員は専門的な研修の機会に恵まれており、先生方の自分磨きは子供や学校の力となる。</li> <li>・教職員一人ひとりが真剣に生徒と向き合っている様子が伺える。そのおかげで、我が子の自己肯定感が高いように感じる。</li> <li>・仕事でもチャットなどを活用したやり取りで業務が進み、その発言がエビデンスとしても使用される。聴覚障害者でも情報漏れがなく参加しやすい一方、簡潔に必要なことを伝える文章力が重要となる。話し合いなどチャットを利用することも文章力の向上に有効だと考える。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究を通して、実践に関する技量や知見が蓄積されたものと思われる。今後は、山梨県と状況が似ている他県のろう学校との交流などから、現時点の課題やその解決法などを学校間で共有・実践できると良いのではないかと。</li> <li>・学校全体で新しいことに挑戦する意識が高まっており、今まで以上に個に応じた授業実践が行われている。</li> <li>・個別学習はろう学校の強みの一つであり、複数人や集団で学びは他の場面「協動的な学び」等で補われていると感じる。</li> <li>・ろう学校だから身に付けることができる力をもっとアピールしてもよいのではないかと。</li> <li>・関東地区聾教育研究会を軸として、今後も授業力向上に努めていただけたらと思います。</li> <li>・相互授業参観やろう教育・教科等専門性を高める研修会への積極的な参加に期待する。</li> <li>・先生方が非常に熱心に指導してくださり、本人に合った指導や宿題の調整などをしていただいていたことに感謝している。</li> <li>・自立の時間での話通訳士の派遣依頼方法の指導、自主通学の際にメールの練習をしていただいたこともとてもありがたかった。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間評価では若干低かった評価が、年度末評価で向上したことから、学校内で懸命に取り組まれたことがうかがえる。</li> <li>・自身の障害の程度やその対処法についての障害認識を深め、セルフアドボカシーのスキルがさらに促進されるような取り組みが今後一層取り組む課題であるかと思われる。</li> <li>・キャリアパスポートを利用し長いスパンでの振り返りを行うことで、着実に勤労意識が育成できている。</li> <li>・学校間及び地域間での交流を定期的に進めることで、社会における自立に向けた取り組みが行われている。</li> <li>・努力されていることは理解できる。この項目の達成度がBからAとなるよう具体的な改善策に沿って取り組んでいただきたい。</li> <li>・亀沢選手、山梨クイーンビーズの来校がとても印象に残っている。亀沢選手と話をした部活の指導もして頂き憧れを抱くとともに、我が子も同じ聴覚障害者の先輩の活躍を身近に感じる事ができたようだった。クイーンビーズも同様だが、ただ観るだけでなく一緒にスポーツをして交流できたことで、直接感じる空気感などを体感し、学んだ事が多かったのではないかと。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚部における保護者アンケートの回収率が他学部と比較して低いことから、その要因を調査し改善に努めることで、より一層家庭との連携が深まるものと思う。</li> <li>・学校運営協議会となってからは活発な議論が交わされており、より良い学校運営に繋がっている。</li> <li>・ろう学校のセンター的機能としての役割がより広まっていくことを期待する。</li> <li>・デジタル配信サービスやHPを活用しながら、定期的な情報発信が行われている。</li> <li>・保護者もPTA研修を通じて聴覚障害教育についての具体的な関わり方を学んでいる。</li> <li>・ろう学校への保護者等の期待に応えるため、外部専門家を活用するなどチームとして支援できるように体制づくりに期待する。</li> <li>・センター的機能については教職員全体で推進していく意識が大切である。</li> <li>・居住地校交流や医療機関と連携してくださり概ね円滑に進んでいる。</li> <li>・支援部主催の交流会がなくなり、通級指導を受ける学生と交流する機会がなくなった事は残念ではある。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とてもよく取り組まれている。強いて挙げれば、在籍する子ども達の安全を守るための取り組みとともに、その子ども達が将来様々な場所で活躍することを想定したシミュレーションにもより一層取り組んでほしい。</li> <li>・各計画の見直しを含め、地域と協力しながら、非常時における学校のあり方についても再考している。</li> <li>・県下に一校のろう学校であり、地域と共にある学校を目指すためにBDDP(事業継続計画)的なこととともに検討して示していただけたらありがたい。</li> <li>・自主通学時の連絡手段としてスマホを携帯させており、いざという時のために災害掲示板の使用を試してみたが、学校や寄宿舎などでも災害時には通信困難となることに備えて、引き渡し訓練時にも災害掲示板の使用を試してみたらどうか。</li> <li>・寄宿舎の避難路について、2階からの非常階段がボイラー室に近い点が気になる。</li> </ul>

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。